

「格差ベア」に終止符を！ 全職場から「労働三権」の議論と 「一票投票」を背景に、全組合員一律ベアの実現を求める緊急声明

2月10日、JR東労組は第42回定期中央委員会を開催し、「全組合員の基本給一律6,000円の引き上げ」「等級に応じた等級間格差の是正分平均800円加算」（全7項目）の2016春闘方針を決定した。

同時に、定期中央委員会の総意として確認された「格差ベア反対」の争議方針に基づき2月25日、「中央闘争委員会」を設置し、職場の「格差ベアには絶対反対！」の声を背景に、これ以上の格差拡大に「終止符」を打つために不退転の決意で団体交渉をおこなってきた。しかし、JR東日本は回答指定日として要求した期限を迎えたが、ベアに対する回答を一切示していない。私たちは、過去最高益に相応しいベースアップと夏季手当の回答を早急に示すことを強く求めるものである。

2016春闘は、集中回答日（16日）以降、1,500円で妥結したトヨタを皮切りに、大手企業の低額ベア回答が相次いでいる。JR東海・JR西日本も1,000円という業績に反して昨年を大きく下回る回答をおこなった。この低額ベアを引き出している要因は、連合労働運動をけん引すべき大産別が、連合の2%程度の春闘方針を大きく下回る「低額要求」と「低額妥結」という春闘相場をつくり出したことに他ならない。これは、1995年のNTT労組の早期妥結によって「統一闘争」という春闘の原則を破壊した時と等しく、この犯罪性は断罪されて然るべきである。さらに、安倍政権が推し進めた経済政策の失敗を覆い隠すために、「景気回復」「デフレ脱却」「経済の好循環」などを掲げ、「官民対話」などによる春闘への政治介入によって、本来労使で闘うべき2016春闘が破壊された事実を忘れてはならない。

JR東労組は、3年連続の格差ベアを許さない闘いをつくり出すと同時に、グリーンスタッフの賃金引き上げ、定期昇給の確保、第二基本給制度の廃止、65歳定年制実現、グリーンスタッフ正社員制度化、グループ会社の労働条件向上、夏季手当3.1ヶ月＋5万円の獲得に向けて、様々な課題を複合的に闘っている。この原動力は、安倍首相が推し進める憲法改悪や労働諸法制改悪、格差社会に抗することであり、社会保障等の負担が大きいのかかる若年層、子育て世代への処遇向上の闘いでもある。

扶養手当の増額要求（申27号）は、賃金引き上げ交渉妥結前の決着を目指したが、会社との認識は深まることなく、3月16日申27号団体交渉を終了する判断に至った。申27号交渉では、18歳未満の子に関わる扶養手当の支給額一律1,500円引き上げ要求に対し、会社は、「現行水準で妥当」という見解を示し、「配偶者に対する扶養手当を廃止し、子どもに対する手当を引き上げる」という“世の中のトレンドは無視できない”という考え方を鮮明にした。扶養手当とは、賃金本質論からして「労働力の再生産費」である。よって、手当の性質上、配偶者や子供を扶養する全ての組合員に等しく支給される手当でなければならない。

一方で、平成24年4月1日に改正した人事・賃金制度によって、扶養家族の有無ではなく、職制によって支給の有無が決定する「仕事と役割を重視した賃金体系」へと変更され、職責を重視したことによって、扶養手当の支給の有無に矛盾が発生している。

したがって、世の中のトレンドではなく、子育て世代の扶養手当のあり方について、職場議論に基づき再申し入れをおこなう。そして、人事・賃金制度の見直しによって生じた制度の根幹に関わる課題として、誰もが分かりやすく、鉄道業に相応しい各種手当のあり方を全組合員で創り上げようではないか。

JR総連春闘を闘う中で、大きな成果も勝ち得た。JR千葉鉄道サービス(株)では、「月給制」から「時給制」への雇用形態を変更する就業規則の改悪が2月24日に突如示された。組合員にとって大きな不利益となる事態に、JR東労組はJR千葉鉄道サービス労働組合と連携し「中止・見直し」を求め、団体交渉でのたたかいを通じて「就業規則等の改正」を延期する回答を引き出し、職場からの闘いによって「中止・見直し」を実現させた。この成果を全組合員が確認しなければならない。

格差ベア反対の闘いへ全組合員が総決起しよう！

JR総連春闘はこれから勝負である。JR東日本は、所定昇給額を算出基礎にしたベースアップについて、「職責に応じて、『納得感』『公平感』『分かりやすさ』を前提にベアを考える」という姿勢を譲ろうとはしない。私たちは格差ベアを絶対に認めるわけにはいかない。これまで全地本から創り出している春闘集会には1万人を超える組合員が結集した。3年連続の格差ベアを阻止し、終止符を打つためには、全組合員の総対話行動を基礎とした「一票投票」を貫徹し、その団結力を闘争力へ高め、闘いを強化する以外にない。職場からの闘いは、京浜東北・根岸線および横浜線の安全と輸送品質を守り、仙台駅出札業務委託を延期させ、JR東日本労連の仲間と就業規則改悪阻止を実現した。全組合員一律ベアの実現は、全組合員の総決起なくして勝ち取ることはできない。

職場から労働三権の議論を巻き起こそう！格差ベア反対の声を大きく上げよう！そして、JR東日本労連の仲間と共に、全組合員の総力を結集してJR総連春闘を闘い抜くことを訴え、中央闘争委員会の緊急声明とする。

2016年3月18日
東日本旅客鉄道労働組合
中央闘争委員会